

まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>



144号
2012年9月30日

ときわ台の景観を守る会
ときわ台まちづくり委員会
代表 鈴木博之 近藤洋子
事務局 島田晴子 tel・fax 3960-3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 景観形成重点地区指定に 関する懇談会

加賀地区と常盤台一・二丁目地区の二つを景観形成重点地区に指定しようとしている区側の説明を聞き、住民としての意見を述べる懇談会が9月5日、常盤台集会所で行われました。

区側8名、住民側27名の参加。住民提案に基づき、問題点などが話し合われました。参加した全員が意見を言う時間もなく、課題も積み残されたので、何回もこのような機会が必要と思われました。

これは、景観法に基づいて作られるものなので、具体的な数値を入れて規制するものではないという説明は理解できますが、では数値(定量的)ではない定性的表現を工夫したのか、実際には何が誘導できるのかが問題になります。どういう表現が適切か、区にも住民にも宿題が出された形で終わりました。

竜谷大の学生の提案では、写真を入れることで街の望まれる姿が提示できる、また牛尾教授は“〇階程度を目安にする”という表現は決して定量的ではない、という意見でした。

○ 景観審議会での区側陳謝

3月12日の景観審議会では、区の参事が、「常盤台は期待度が高すぎる…景観法及び景観計画においては具体的な高さの基準は決められません。そのことをご納得いただくのに、常盤台地域は時間がかかったかなど。」と発言。住民にまだ諮られていず、納得もしていないのに、既に決まっているかのような発言に、常盤台住民が抗議、区側から訂正と陳謝がありました。

私達の関わらないところで大事なことが決められていくのは我慢できません。

○ ロータリーコンサート

10月7日(日) 11時～

出演 新東京アカデミー室内合奏団
(指揮 松原広地)
オカリナ・デュオ・うらら
ギター演奏(志摩光信)

○ 審議会委員は常盤台に ついて知ってほしい — 直接住民の説明を —

今、私達が大きな問題としているのは、常盤台北口駅前が、池袋並みの商業地区とされ、おかげで商業ビルではないマンションの高層化が許されて環境や景観を破壊しているのに、区が今回の計画で、「高層化を図る」地域として色分けしているからです。

板橋区は、望んで景観行政団体となったばかりですが、景観を大事にするという資格が疑われる計画だと思われまます。心ある建築家は、業者にお墨付きを与えるに過ぎない計画だと述べています。

とりあえず9月に行われた景観審議会に、常盤台の問題を直接住民から聞いてほしい旨の「お願い」を、地裁判決文の一部コピーと共に渡しました。直接ではなく、区の職員から郵送されるそうです。

主に都市計画審議会が扱うということなので、同様の「お願い」を出すつもりです。各委員がどれだけ常盤台の事情を知っているか大いに疑問だからです。

いつも都市建設委員会などの傍聴で感じるのですが、各委員はなぜ区の職員に質問して事足りりとするのでしょうか。職員の表現次第でとんでもない誤解を招きかねないのは左記の陳謝の件でも明らかです。

水島信さんの辻説法

六月に常盤台その他の市民団体のために辻説法を行った、ドイツで活躍中の建築家、水島信さんが、九月にまた帰国、続編を行いました。常盤台でも「生活空間と都市景観―法制度に優先する基本的人権―」と題して九月二十九日（土）二時からギャラリー服部で講演していただきました。

参加者にはインターネットで知って来た愛知県の若者もいて、質疑応答で話し足りない分は琥珀亭でコーヒーを飲みながら七時ぐらいますの時を忘れてお話をうかがいました。

次回が企画できれば、もっと前から宣伝しないと、勿体ない機会だと反省しています。

ドイツと日本のまちづくりの違い、日本の根本的に非民主的な仕組み、などが見えた段階では、どうするか、の問題に取り組んでほしいと今後の活躍が期待されています。

日中関係・日韓関係悪化のかけ

竹島や尖閣列島を巡ってきな臭い匂いが漂い始めました。決して戦争をしてはならないという痛恨の反省が本物であったかどうかを、今こそそれぞれの胸に問うべきなのでしょう。

好戦的などこかの知事や、武器製造関係の人々は、戦争が起きることを密かに望んではいないでしょうか。平和主義者がかつての非国民扱いと同じように、偏狭なナショナリズムに圧殺されるような世の中にならないでしょうか。欧州でも日本の右傾化を懸念しています。 S

クルドサックの街灯

公園脇のクルドサックについては、ゴミ置き場の移転の件で、ご近所の方達との話し合いがゆっくりと進んでいます。

中に設置されているレトロなデザインの街灯も塗り替えることになっていますが、その向きについて見解が色々あり、興味深いことでした。

殆どの人はあそこの街灯の向きはおかしいと思っているのですが、無関心な人も多く、なんでこだわるのか、と言う人もいます。

区の方は東西の向きに統一しているのではないかと、言うのですが、東西に固執する根拠がありません。フットパスに光を当てようとしたのではないかと、言う意見もあります。フットパスの途中には別に街灯があるし、とても奥まで届きません。誰かが明るすぎると苦情を言ったのではないかと、言う説も、この辺の家の窓はかなり離れており、そんな話は聞いたことがないそうです。などなど、皆で首をかしげたものでした。

とりあえず、向きが変えられるか検討して、可能ならば正面から見てもサマになるような角度にしてみよう予定です。

常盤台公園のはなづくり

夏の夕方、蛾のようなものがひらひら公園の空を飛び回ります。コウモリです。いつごろから住み始めているやら、間近に観察したこともありませんが、また今年も無事であるな、と安心しました。冬はどうやって過ごしているのでしょうか。ねぐらはどこなのでしょう。

身近の動物も随分変わってきました。カタツムリを見かけなくなりました。ナメクジの方は嫌と言うほどはびこっています。カエルも少なくなっています。冬になると枝からぶら下がっていた蓑虫は、大分前から全く姿を見ません。ヤモリは健在のようですが、トカゲ・蛇もめったにお目にかかりません。

今年は酷暑のせいも、アリが行列も作らず、カナブンやセミの死骸が落ちていても、いつまで経っても片付けようとしていないのです。仕方なく人間が掃いて捨てますが、以前はアリの仕事でした。

北側の入り口のサクラが一本、切り倒されました。大枝が切り取られ、まるで「く」の字のような形にされていたので、いつ駄目になってもおかしくない状態でした。切り口を見ると中心部の色が変わっていたので、諦めがつかまりました。

定例会十月六日（土）七時

「ギャラリー服部」にて